

第1回

研究計画書の書き方のポイント

国内 MBA 入試における研究計画書の位置づけ&研究計画書の書き方のポイントと、受験生が陥る研究計画書作成時の問題点を講義する。

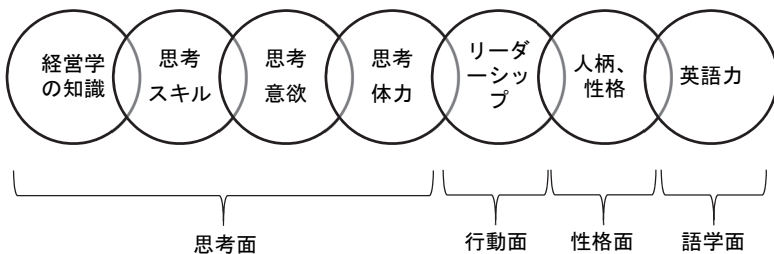
1 国内 MBA 受験の評価基準

(1) 国内 MBA 受験におけるスクリーニング基準

著しく人気の高い大学院では、最初に受験者を面接可能人数まで絞り、その次に面接で可否を判断する。この絞り込みの基準がスクリーニング基準である。国内 MBA 入試の場合、2次の面接まで進んだとしても、すでに面接前に可否が決しているケースがある。

国内 MBA 入試では、一部の非常に人気の高い大学院で上記のスクリーニング基準による絞り込みがおこなわれているとアガルートでは推測している（神戸大学、一橋大学（経営管理プログラム）、早稲田大学夜間プロフェッショナルコースの一部モジュール）。その基準は年齢、所属企業、学歴、職歴だとアガルートでは推測している。

(2) 合否基準



ア 「思考面」での最終合否基準

① 経営学の知識

基本的な経営学の知識があるか。

② 思考スキル

MECE やロジックツリーを用いて論理的に考える力。アガルートの小論文で伝達効率の高い文章が書ける力。

③ 思考意欲

何かあれば本気で考え、自分なりの見解、解決策を考えだそうという意欲。アガルートの小論文で出来が悪かった場合など、なぜできないのか？原因を探索し、その原因の克服策を複数考え出して実践し、それでもできない場合は、さらに深く考えるような意欲。

④ 思考体力

考え続けることができる体力。深夜まで仕事をし帰宅してから研究テーマを模索するための文献調査をし、それをもとにしたテーマ創出のために思考することができる体力。

イ 「行動面」での合否基準：リーダーシップ

① リーダーシップとは？

リーダーとは成果を達成する人であり、リーダーシップはそのために必要な能力である。必要な能力・行動として、「目標を掲げる」「先頭を走る」「決める」「伝える」がある。

「先頭を走る」リーダーというのは、公衆の前に自らをさらし、結果がうまくいかない場合も含めて、そのリスクや責任を引き受ける覚悟があり、結果として恥をかいったり損をしたりする可能性も受け入れる、受容度の高い人である。

「決めることができる」リーダーとは、たとえ十分な情報が揃っていないくとも、たとえ十分な検討をおこなう時間が足りなくても、決めるべき時に自分で決めることができる人である。

情報が完全に揃っていない段階で決断をすることはリスクが伴うが、このリスクをとり、結果責任をとるのがリーダーの役目である。「十分な検討時間がなかった」とか「必要な情報が揃っていない」という言い訳をして決断を先延ばしする人はリーダー失格である。

② リーダーシップの注意点

先に説明した「思考スキル」などがいくら高くても、リーダーシップがなければ、現実には起こっている問題は解決しない。MECE やロジックツリーが書ければ、問題が解決するかというと、まったくそんなことはない。

リーダーシップは、組織の和よりも成果を出すことを優先する。日本では時にビジネスの現場でさえ、成果よりも組織の和が優先される場合がある。たとえば、先代の社長が始めた事業で思い入れの強い人が多いので、赤字で会社の経営状態もよくないのに、先代の社長やその事業に思い入れを持つ人に配慮して継続する、というケースがある。これはリーダーシップ不在の企業の典型で、危機的な状況である。

リーダーシップとマネージャー（管理職）は異なる。リーダーシップは成果を出すことを使命とするが、管理職は経営管理が役目である。人員の管理、予算や実績の管理をするのがマネージャーである。

ウ 「性格面」「語学面」での合否基準：人柄、許容度

国内 MBA 入試では、人柄や人の意見を許容できるかどうか合否上かなり重要である。

許容度に関しては、ケースディスカッションが中心であり、成果を出すには多様な意見を受け入れる姿勢が大切なので重視されている。この点で、自分の主張を押し通そうとする強引な人は、単なる頑固でわがままな人と判断され、不合格となる。

国内 MBA 大学院は、明確な成果目標を持っているわけではない。たとえば、修了生の何名が〇〇企業に就職した、といった成果を意識している大学院は少ない。そのため、成果を出す上で最も重要なリーダーシップよりも、学生同士で人間関係を良い状態で保ちながら学生生活を送らせることに力点が置かれている場合が多い。よって、人柄、許容度など日本的な和を尊ぶ精神は合否上かなり重要な要因だと推測している。

英語力は筆記試験があるのが神戸大学と一橋大学（経営分析プログラム）だけである。神戸大学は、過去の指導経験から得られたデータを基に考えると、試験の出来が悪くても合格しているので、合否基準としての重要度は低い。一方、一橋大学は大学受験同様に単純に試験結果の合計点で1次の合否が決まるので、英語の重要度は高い。また、京大はTOEICやTOEFLのスコアが必須になっており、総合点に占める英語のウエイトも高いので、TOEICで800くらいは取っておくと思う。その他の大学院は過去の指導経験から得られたデータを基に考えると、英語のウエイトは低い。

エ 「その他」の合否基準：企業派遣かどうか

企業派遣として受験するか？個人での受験かによって受験結果が異なる場合がある。企業派遣とは、企業の推薦で国内 MBA に進学するものであり、授

業料などの費用はすべて企業が負担するものである。全日制に企業派遣で進学する場合は、仕事は基本的にはしないため、在学中の給与まで保障されての進学となる。

この企業派遣での受験の場合、慶應義塾大学、神戸大学、一橋大学（経営分析プログラム、経営管理プログラム）、早稲田大学の MBA は有利になると思われる。その根拠は、過去 16 年間指導をしてきて、企業派遣で上記 4 つの大学を受験して不合格になった方がいないからである。企業派遣の方でも小論文が苦手だったり、研究計画書の作成でうまく仕上がらなかった方もいるが、過去指導した受講生は全員合格し不合格になった方がいないのである。あくまでも予測であるが、企業派遣は上記の 4 つの大学では有利になると思われる。その他の大学院でも同様のことが言えると思われるので、企業派遣の方は最初からアドバンテージがあると考えていただいてもかまわない。

(3) 合格基準と入試科目の関係

ア 小論文

「思考面」の経営学の知識、思考スキルを見ている。

イ 研究計画書

- ・「思考面」の経営学の知識、思考スキルだけでなく、思考意欲、思考体力をトータルで見ている。
- ・実務経験や過去の成果を研究計画書に書く必要がある大学院の場合、「行動面」のリーダーシップも比較的重要になる。

ウ 面接

- ・「思考面」の思考意欲、思考体力を見ている。決められた回答をするのではなく、その場で考える意欲や考え続ける体力が試されている。なので、回答が正解でなくとも、正確に答えられなくとも、積極的に考える姿勢を示し、考え続ける継続力を示せば合格する。
- ・最も面接で重要なのは「性格面」の確認である。人柄、許容度などが面接で確認されている。